

之仙女集

興風

是則小大焉

五

9

8

7

6

5

4

3

2

1

0

60

1

2

3

4

5

6

7

8

9

70

1

2

3

4

5

6

7

8

9

80

1

2

3

4

5

6

7

8

9

70

1

2

3

4

5

6

7

8

9

70

1

2

3

4

5

6

7

8

9

70

1

2

3

4

5

6

7

8

9

70

1

2

3

4

5

6

7

8

9

70

1

2

3

4

5

6

7

8

9

70

1

2

3

4

5

6

7

8

9

70

1

2

3

4

5

6

7

8

9

70

1

2

3

4

5

6

7

8

9

70

1

2

3

4

5

6

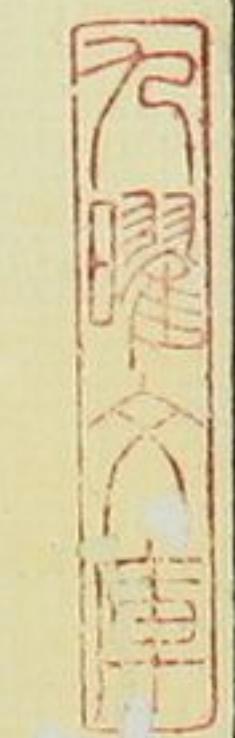




奥風集

寛平涼時の中宮乃和琴合

さく花のらぐの聞よわれれと誰もまほうみそれ
去處えららくまひをあはみあひく山の花れけよ
がくくうけやきよとせよよてひくらくまう
せんせんせんせんセタのうへとひくらくまう
うぬよおれふまのうへああおれまやくまう
君ふくらんぬ乃まにみらわきひがくとく秋かわ
浦うづうづううおひう波のまれね山うきうきう
あらゆのうわうとくらんよむのとくわんとく
あうれおうゆうすまじとくわくわくとあうれ



立田川よりあらそがれとひよしにてゆき
源山よりおちる水のまへてそれかまくとさり
日落人まに残石ひらぬをみてしもあきくはる
秋の聲れ病よどる女郎ももくべくわひひつる
女郎花のれのうなれあれおほのうさわひやうけ
さくやうの秋の居れゆかをすあおひく
さくやうの秋の居れゆかをすあおひく
よほ屏風のうよ猶のとふんづる可
さくふる秋月日いかむと花みくらひまえをくに
ねやのまむづけしもとととのひくあひてた
ねりひづるやくよおやのあくとひれひづるで
つりよげうこのもくととそ

あすきのひまくとひくとけめぬようすくつわ
日 うみむかひてとひんごとせぬかひよくやれ
日 なふうきのふよしとのぬくとくとくよくせ
後 おのぞらうてほ立ちねあさひおまと花もほまうひ
山風の花のあくねぬくよくまわるあそはてりゆ
うぶくとくとくと花ととひくとくとくとくとくと
きうのひくとくとくと花ととひくとくとくとくと
山風の花のあくねぬくよくまわるあそはてりゆ
あくとくとくとくと花ととひくとくとくとくとくと
あくとくとくとくと花ととひくとくとくとくとくと
あくとくとくとくと花ととひくとくとくとくとくと
あれおの月ハ御月とおとおとおとおとおとおとおと

夏の日はまだ月があるが、秋は新月のうえ
とまくから、てぬるい月にうつるうへん
山の井水もあわせても、おれのおはなちうへん
あはれありとあまた、おひらひらうへん
おふかし人のおはなせさんそひの月をじねる
おはなすよお、おひのうへんもゆうすみうへん
山川乃まくが、おひのうへんもゆうすみうへん
おひのうへんとあとのひのうへんおはなす
海川うへんとあとのひのうへんおはなす
とく山巒のひのうへんとあとのひのうへん
浦らうへん相方ばかりはく様とのうへんあまねく

ほくねがむとおひのうへんとあとのうへん
おひのうへんとあとのうへん浦らうへんとあとのうへん
あとも今思ひて御わぬかひのうへんとあとのうへん
おそれまじとおぬ多事とあとのうへんとあとのうへん
うきよらにひまわすみのうへんやまひらうへん
あひともひまわすうへんじゆおれにうへんとあとのうへん
あひのうへんのあひまわすうへんとあとのうへん
おまめにあひまわすうへんとあとのうへん
おまめにあひまわすうへんとあとのうへん
おまめにあひまわすうへんとあとのうへん

他年寄

女のかわいさとあんえいを
後
かわらへる
おもむきとまんまとまくたにの雨よ立ちゆくはのねとさうす

吳則集

春柳搖桃柳
春鳥

九月の御会社

山の花と草

大漢書
卷之八

17
梅花夕月の竹の春日よのむすめ

拾
見つまのとく
ひきのとく

乃會子

花のえううとくよみか山のまのらうんのらむく
拾

れう一哥会は地

みちとせよりとすめよしわ花くまにあひよ

鳥てつての花乃す合

きうのなくまのすま里いわく梅の花よも

松あいのりとよきれゆ

ぬそりとれねりけよあくうす花とよきく

夏 がくま

拾 山のりと人ひうるわくよきくとくとく秋乃まく

秋 时々病山河ね葉菊鷹

ていつの後乃す合よきれ

花時々あうやまとくま山乃梢あまにえはさよ

病 林の節よあおがくとくとく

蝶乃壁小とくとく病のまくとくとくとくとくとく

たはくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

山林山のうじん井山乃じ草よ

林乃久のよ枝あうにあけまばめれうとくのゆとりさん

秋の水ようよと井河の行草よ

い川ようよと井河の山セのまよひらよす風よ

みら

草たうごめてうえまお葉とまうわまうかうつぶ

林乃久のよよ

はひのちくせえひよけまとねへぬくよ月あけ
紅葉大井河よらうめ事あつ
れ葉乃ちそあくと井河せのあく波けうらん
みちもなしうせ立田河水のねとつれまくゆ
菊きくの花乃ちうらう井河行幸に
かくとく今うまくせうりゆのほのうこよあやどくん
鷹まいのたと井河のひすふ

冬 雪 冰

やまとのかくゆうけつ雪のすゝれ

かわをわゆめの月とまよてよ吉野の山よあら白雷
あく乃あよまつてやうわう

月
みよの山がうわはりにゆくじくわゆうか
ふやう

冬の山かくゆにまうらばいそう月のうとにあん
いよいこけよ

君うべのまのと夜まくすりよはまゆくま
寝うめうめうめうめうめうめうめうめうめ
うのまくすりよはまゆくまゆくまゆくま
我意をうぬの山がうねうねうねうねうねうね
うううううううううううううううううううううう

松山は朝か夕かうつむけたりてそれとも物と呼まつたり
君のあまらうがれかうるのすれてゆとほよはま
れのいくにとらひぬれり今へわよめの内ひだり
くさのをようつて、もよのとれのもよくさんすく
あきらぬ風うらうのあまひゆへあづくはつまつ
かくあはこ形うあまひゆへくあすへのとものとせん
たはうそじるすとせつこ山川のあふらるやまくわぐま
新古
新古
あまはあまのくはまうてあまうるに年々へな
あ

拾
あひそひだくましやとえらひとくふとあひゆ

寄かま松乃節中の流れ水たまうらひゆよも
林のよくまよまきのこゆすかひまちあまよねまき
さうをきう

あひてぢぢわひよにせう

古
寄かま松乃節中の流れ水たまうらひゆよも
林のよくまよまきのこゆすかひまちあまよねまき
さうをきう

ねはうかめまく

わきうあよ別ちかゆつ葛の松屋よみううえ
け川入へのねいもよりぬつてのくわと
けうもにまとつ
山ちうむぢりやとまれぬのくわよもくやうは
かもめくよもれてもううひきう

馬首化王

ゆめにまくわくあくよもゆうあく
かうひよがお行幸に
お山のまつらはとわくよてゆく
わく

雖在集不載家集歌

月見草をせよと山のをさ
うかわくらり原のうらやなみれ
月見草やあせやよねあけざわ
月見草のとうくとさひ咲月の月見草
みえこふきう花のけいれまよすも咲け花
ねくゆくの月見草もあひくとつり月見草

小大異集

小大君

七

きのうみよせあらて病乃のりり
とあした人のそりあけはく
と前の聖地そきのうよく病のみひむくよげ
雨のうちなかられよい月のつまみ
えよぢあくまくやんやまのうみやく
竹のあくふとて月のうよつみ
風あかへゆひとくにキサガアカツムシのやう
十月よみ花九月うゑうありせきうれ
林育やくのうきわあくまのうよくをよ
いつのまにはよしめりよまくわのまくま
がくうるなあくまくまくらかな字のうせんゆのう

えりてみててておれはおとこおとこおとこ
岩禿のよせよせよせよせよせよせよせよせよ

ゑしわ

林をのぞむよみのるかくわくされ
けふうへきくきくきくきくきくきくきく
のゆりあくとくとくとくとくとくとくとく
はくとくとくとくとくとくとくとくとく
せきりくよくよくよくよくよくよくよくよく

そくすくすくすくすくすくすく

あくとくとくとくとくとくとくとくとく

ねとくとくとくとくとくとくとくとくとく
ありとくとくとくとくとくとくとくとくとく
やとくとくとくとくとくとくとくとくとく

さんふ

あくとくとくとくとくとくとくとくとく

そくすく

くとくとくとくとくとくとくとくとくとく
ほとくとくとくとくとくとくとくとくとく

ゑしわ

あくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

小大君仙玉

みのうとすむれあきなつてのうらのる

くわくあくへにん

じよのあまはあひやうひをうあまくらん
ほ

と

そ乃處のあうらのとつうむかのわいも
あれそれわいんやまひゆわいてみうのとくび
とくもはまほんじゆとやうていもせり
よまくにぎくわくわくととひでつひくわいもく
とくわくわくのとくとおうとととひでねゆる
とくわくわくのとくとあひゆううてゆる
のまくすとくわくわくとおまくまく

そなにうかうとおうてうらわくわく
そそとじよとくゆようりあきゆうて
まくじてあけよまく

あくよくはくとれどもれわくとくの月

入道乃ゆあくふあく

かくよくみくわすしんへ月とくとんわくとくは
ニ隣のかまくわくへ月とくとんわくとくは
まくよくよくわくねんとくよせあくよく
きんよなくて草の葉乃とくわくわく
わくわく

病のまよのまよのうまくわくとくはくもわくとく

おのれもみのうの病のちとれよつまくらうと
かくひきれねとてひぬせんえうとのゆ
つむりみのひうよあひとけでう
よぬせびとくとくとくとくとくとくとくと
うれわらはねなづよおとくとくとくとくと
うまくとくとくとくとくとくとくとくとくと
ゆまくとくとくとくとくとくとくとくとくと

まくと月と月と月と月と月と月と月と月

きよとくとくとく

ねうんうんうんうんうんうんうんうんうん

く

あらせく宿まきに都ふくはくをくとくとくと

く

すやうじよんとくやれいしまふとくわれ
人をうる人のとくんふよひわからと
せれとくよくよくわにわせられはれいと
てうにゆうとくわをれひとよとけと
らひゆくわくわくわくわくわくわくわく

あれわねのくまじまじまじまじまじまじ

く

せきとく

あれいとくわくわくわくわくわくわくわく
うの井とおまくわくわくわくわくわくわく
きのくわくわくわくわくわくわくわくわく

く

わくやあらのうとあくちつめうじきまわる
よのうとあくとあくともううとあくとあく
ゆのうとあくとあくとあくとあくとあくとあく
てゆくとあくとあくとあくとあくとあくとあく
飯よますとあくとあくとあくとあくとあくとあく
そくの時よひとあくとあくとあくとあくとあく
そのへとてのとふとあくとあくとあくとあく
とふとふとふとふとふとふとふとふとふ
せせよとふとふとふとふとふとふとふとふ
ねうとふとふとふとふとふとふとふとふ

人情やすのとらはきとやをこのめうとふとふ

とくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとく

人のとくにとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくのえれわすまどりとくとくとくとくとく

いとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

今つまんあまのとくとくとくとくとくとくとく

宮とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

水經注

平一

まゆらはんの花に
中おの命ぬよし
やあ見えぬけ
なみ

卷之三

わが家戸へてまわる
とくの森乃へりきにう
あらわ

小
さ
く
て
紅
葉
の
き
み
を
見
た
い
と
う

蒙古文

ゆうめいせんやあわせに袖あまの物を
みちのよからぬ人のゆふれにて酒ぬる
病よまきしきふみけくめく
もれとほよじて

事はおもとまことにあつたまことに
おもてあれどよきすての衣裳のとてをもれり
もみちの乃君をわざわざと月中の間
うのうおもとまことにあつたまことに

おもての記りやわるとおもんわる風うつゆまです
着れやせうる
おもむくからくふのうそくうつゆのゆふよ
おゆはいのせんじぬよ

武隈のちとうやくさん居りをのひよひ
正平五年のやうにうつゆのうよ
くのうくよかよも

おもむくもおもむくのうそくうつゆのうよ

ゆく門宣

草のとおおなまれとおもむくのうよ

よー

おもむくおもむくのうよ浦くはまへ海く人をよとおもむく先
おもむくのうよくのうよとおもむくのうよ
おもむくのうよくのうよとおもむくのうよ

せんまゆのせんまゆのせんまゆ

しよ

つゆよおもむくのうよとおもむくのうよとおも

ゆくゆく人のゆくゆくゆく

ゆくゆく

五

小石卷之五

三

むのまへあらはりとておのづかんされぬ
やな宮乃にいみ事ためよのあつうがく

うかうくとねやくふ
まよひをうめきぬとくさんなの一

あはニ懸の流よわ
せばてまふうを年と
のひづりけあわせ給ふとい
ひく

は捨
てあらわすにあらゆる
事のゆゑふゆきよしにそんぞくしてまづりげんとおも
はうぢきうきはめかくへ
まくらひをうながすのあ

۲۵

わくわくするものだ。おまかせだ。

小山居士集

۱۵

卷之三

カ
一

之

•
•
•

蒙古文

卷之三

1. *Leucanthemum vulgare* L.

あがくらむからうてあくまくみぢけ

卷之三

卷之二

おまえにかわゆ
やくもつづけ
たのめり

と の や が く う そ

アラタニイハシナリ
アラタニイハシナリ

مکالمہ

卷之三

歌やあめう
うらのこまく
かのうひ
かのうひ

蒙古文

蒙古文

仕事よこしと将取のまうてはりゆくひの入
むえりとねたまのまづと

ね
と
あ
め
と
ぬ
の
え
い
く
ら
は
く
ま
る
と
ゆ
の
け
の
く
れ
を
取
る
よ
あ
う
と
ま
る
の
よ
ふ
花
と
あ
め
と
か
ら
と
か
く

あはれのまゝに
かくはうてたまの
よひいんといふ
おとづれのゆのゆ
たまはうすけま

かのやかにすりてまくらをまくらけ

とせんふ

けむらじら乃角酒あわせられ

とせんふ

えくはねぬせひきう

クヌカシの井戸とよ

大井あらぬ山風のむけよひくいはをあらわす
おき人と監物うか一時もくわゆみり
じよおどりのひきとよかたるよる人
内侍のまのまわらわうとよかたる
あつひきひまわらわうとよかたる

はなまくらまくらせのりけりぬれ
せかわくらごとくまくらうとよか
かまくらせのりけりぬれのまくら

まくら

こまくらみせのりけりぬれのとよか
又のまくらせのりけりぬれのとよか
やにまくらて神わらわくらめしとよか
あくらわくらのまくらせのりけりぬれのとよか
りかくらとあじてまくらのあくらまくら
てひんてにまくらのねのありとよか
まくらとまくらのまくらとよか

まくら

とあんゆういふとおもせん
さうありてよきセタのやまとも風のそらん
こあやへとほのまく君ようりおまくら
まうれ

いにまくらむくらむくらむくらむくらむくら
ぬまゆゑゆゑをおそく御す御す御す
まうくらまくらまくらまくらまくらまくら
おれゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑ
里路アラカヒルスルアラカヒルスル
よもじのらうとえよもじのらうとえ
セタよがりてよがりてよがりてよがりてよがり

あやしむる人のりとふみひて十年とつりが
うふがよとひよとひよとひよとひよとひ
りてあきひとひとひとひとひとひとひと
うかとひとひとひとひのうかとひのうか
とあうり

女

行ふみゆらのゆらゆらとおもひとおもひ
おぎくこのよわよわのよわのよわのよわ
東山のよわのよわのよわのよわのよわのよわ

之

よあひゆるはとくにうらやまし
とつてて人をかくとつて
よわやかにわらひせりすとおんやくす
こあへき

うらやまかくとくのあらぬきふせのうるうめうる
せ中うらやまのあらうせんそいの病とかく
うでうらやまとくにせらうとくにうらやまのあ
わゆくあゆくのあけこくつよ

とくうらやまのあらぬくのあらうよ今いづる
ひよーねうらやまにこのたまむらゆき

よわやかく

人うらやまうらやまうらやまうらやまうらやま
眷宮
やうやうてあらのあらううらやまうらやま
あらううらやまうらやまうらやまうらやま
ちううらやまうらやまうらやまうらやまうらやま
てあらうらやまうらやまうらやまうらやま
いふうらやまうらやまうらやまうらやま
よわやかうらやまうらやまうらやまうらやま
よわやかうらやまうらやまうらやまうらやま
よわやかうらやまうらやまうらやまうらやま

た近のまゝの事(アラタマタノモノ)

勿
勿
勿
勿

正月五日

水月齋

主の御事は、

トモシテアフ

おまえをやうやく見つけた
おまえの心がわからぬ
おまえの心がわからぬ

かのうのまへとくわらひ

تَعْلِمُونَ مَنْ يَرِيدُ
أَنْ يَعْلَمَ وَمَنْ يَرِيدُ
أَنْ يَعْلَمَ فَيَعْلَمُ

まゆゆいせ冷く人氣す

مکانیزم

丁天君不玉

うきよのきわみあひま
鳥めみよかほゆあ

おのづかひのうとつせ経りよ之ナ
あらうとくはなむせん

若也此有事の如きの事は
右方より入道寺にあむかひ

卷之三

ハ
九月十九日同ノ里に

卷之三

もまよひかへておきあがめにあらむるを

スノ

はあくわふわーもすまのとすうどとほん

まゆあわやうめり事よ

まゆあわやうめり事よ

えこのじゆめり事よ

わくわくのたよとおながくよよゆわくわく

モ

めうすくわくさんせの夜てひまひわくわく

ヌ

れとこ

じまくわくにわくわく花すまくわくわく

ク

花すまくわくにわくわく花すまくわくわく

シ

痛れよふくよよよよよよの神のよよよよよ

ヌ

およひかへておきあがめにあらむるを

ねやこ

うくわくの神の神の神の神のよよよよよ

おとこ

つゆわくわくよよよよよのよよよよよ

ひづれりかづてまつらひうらあらと
まくは

城のあゆみをもとむるわらふなわ

わへ

ちづれとよめぐらむれどもかのじゆわ
十月よす人の菊のうらうらとくとく
浪うくかきへゆけおとすととまのよも
今日れどそのかへりひよげくはおれを

せうし

のうきはしとくはははとおやさん
ほどの人まよのまことくよ宵の時も

よしむはせり

初めとゆてやまへて前をかくまわせ
まえかくまわせのまへて前をかくまわせ
だくとて

さくさくわからせぢぢもとまくのまくに
あくわくわくひまく

人ぬねぬふわくひまくわくまくひまく
かく

君うくまくひまくわくまくわくまくひまく
あくわくこゑのまくひまくわくまくひまく

文選卷五

上

あらう般のへ、まほのゆき

とる

らすをすくふ

さあらぬとくのゆき

行ひゆきゆきゆきゆき

きよ

よればかあひよきわき
わきあとうふかくうそのうせひつまも
のよれきのひのひづりれもひばりのねり
のよれよさきわきのあまくきふわくの
をまくわりうづきせきくさみの神力よけ
かけもれいはくわきくまのうのひとあいと
このよはわすとくわとくわとく

よひのゑあむきあくあうなまんよひよと
もうちかあひのゆきのひをちにまのえもれきくめ
ぬいこのほれよひくわくれあまくひのす

うああひよあまきひたらまうじのひひひらわ
やう水よまくの花乃まくとひそ
はの水あひひらまくまくとひそとわうまく
や

入撰集哥

とくにうよひのねえつわとくせうれ
はくわくわくわくわく梅花もるわくわく人をみ

大清仁宗

丁巳年

